神社巡り

当館の普及事業の中で、各学芸員が取り組んできた調査の結果などを市民に紹介する「学芸員トーク」という講座があります。恥ずかしながら、このところ一つのテーマを取り上げ集中して調査を行ってはいなかったこともあり、あらためてこれまで行った調査を振り返ってみたところ、「神社」の文字に目がとまりました。

20年以上も前のことですが、「釧路の神社」というテーマで市内の神社を調査して報告を行っています（当館紀要第21輯に掲載）。具体的に神社一つ一つを取り上げたわけではなく、リスト化して概観した程度でした。今となっては、何がきっかけで神社を調べたのか、記憶がおぼろげです。

この調査から現在に至るまでに姿を消した神社がある一方、2007年には当時の阿寒町・音別町と合併を行ったことで市内の神社という対象は増えました。どこか出かけた際には、車窓から記念碑等を見つけては撮影していましたが、神社の境内には記念碑の類いが建てられていることもままあり、訪れる機会が増えてきていました。この機会に神社巡りをと、今年の春先から徐々に巡っています。

半年ほど経過しましたが、小規模の神社や旧阿寒町・音別町の神社はまだまだ現地へ足を運べていません。文献等で神社に関する情報を得ながら、ネットで神社の位置を確認して現地へ。また、市内の神社と比較する上で他町村の神社も訪れており、この場合は記念碑等見ていますので、目的の調査はさらに進みません。それでも、確保できた時間に応じて車を走らせては市内並びに周辺町村の神社に首からカメラを提げて出没しています。

神社を訪れては撮影のお許しをと、まずは一礼。先ほどもふれましたが、境内には奉納物や神社・信仰に関わる碑のほか、地域の歴史を語る記念碑などもあり、地域の情報源となっています。馬頭観音の碑は地域の産業や暮らしを支えた馬とのつながりを、開拓に関する碑や個人の顕彰碑は地域の歩んだ道のりと人々の関わりをそれぞれ教えてくれます。宮司の住宅が隣接している神社以外では、人の手がかけられているかどうかが気になり、草が伸び放題になっている姿には神社に対する人々の関心の低下、地域の人々そのものが減少していることを実感します。

神社は、人が暮らし、地域コミュニティがあることを示してくれます。これらがすべて失われたら、そこに地域があったことさえ忘れ去られてしまうかもしれません。

時の流れとはいえ、人々の暮らしを記録して後世に伝える仕事を行っている自分にとっても、この神社巡りはけっして小さなこととは思えないのです。

今年の「学芸員トーク」は11月。どんな報告ができるか、今後の調査にかかっています。

（戸田 恭司）

野鳥の巣の話

皆さんは野外で野鳥の巣をみつけたことはあるでしょうか。鳥の姿は見つけられても、巣を発見した方はなかなかいないかもしれません。なぜなら、親鳥が見つかりにくい場所に造る、周りの景色と似せる等といった工夫をしているからです。もし、巣が外敵に見つかってしまった場合、せっかく大事に抱いていた卵が獲られてしまい、親鳥まで襲われる可能性があります。そのため、親鳥たちは場所選びに時間をかけ、一度巣を造っても気に入らなければ別の場所で造りなおすなど、非常に神経をつかって作業を進めています。一口に巣といっても、地上に造る鳥もいれば、樹上、崖地、土壁など様々で、巣の材料も植物を利用したり、小石を集めたり、千差万別です。例えばカラスの巣なら、土台の木の枝は周辺部から中心に向かって徐々に細くなっており、器用に組み上げられています。さらに、産座と呼ばれる卵を温める空間は、木の皮、縄の繊維、服の切れ端、公園に落ちていた犬の毛など、様々な素材を組み合わせて保温力を高め、卵が冷えない工夫をしています。種類にもよりますが多くの場合、巣造りは非常に労力がかかっているのです。このような理由から、巣を発見すること、ましてや入手することは困難で、年に1～2個手に入れば良い方です。

今年の初夏に、市民の方から野鳥の巣をたまたま見つけたとの情報を頂きました。その方には、子育てが終わった後、採取可能な場所であれば、提供して欲しい旨を伝えました。すると後日、巣を持ってきて頂いたので、調べてみるとベニマシコの巣でした。ベニマシコはスズメと同じ大きさぐらいの小鳥で、オスは全身が綺麗な紅色をしています。草地や林縁部、湿地で繁殖する鳥です。巣はホザキシモツケの枝へ、植物の葉や根を丁寧に巻き付けて造られていました。直径は約10cm、高さは8cmほどで、例えるなら小さな湯呑のような形をしていて、とても緻密な造形に驚きました。

多くの野鳥は、毎年新しく巣を造るため、古い巣は資料として集めることができます。巣には、その鳥がどのような場所で子育てをしたのかなど、たくさんの情報が詰まっています。もし、皆さんの周りで古い巣をみつけたらぜひ博物館へご連絡して下されば嬉しいです。

（貞國 利夫）

ベニマシコの巣